

縄文土器の文様

下 祐一朗

縄文土器について

縄文時代を代表する道具で、煮炊きをはじめ、盛り付けや貯蔵など日常のあらゆる面で用いられた。石器、骨角器と比較して加工しやすく、多彩な種類の文様や器形が確認されている。長期に渡って発展した文様は時代・地域によって多様な変化を見せており、縄文時代を区分する指標にもなる。

文様

粘土を貼り付けて土器の表面から浮き出た文様になっている浮文と、ヘラなどの道具を用いて表面より凹ませた文様である沈文の2種類に大別される。縄文土器の文様は、施文の道具や向き、順序など様式によってそれぞれ一定のルールが存在していたことが分かっている。

時期ごとの文様の変遷

・草創期

粘土粒を貼り付けた豆粒文、粘土紐を貼り付けた隆線文が最初期に出現。爪型文、円孔文を経て、草創期終わり頃に多縄文系様式が使われ始める。

・早期

回転施文が発明され、撚糸文、押型文が現れ始める。その後、ヘラ状工具や貝殻を用いた条痕による施文が土器の大部分を占めるようになる。

・前期

早期までの技法と大きく変わらないが、土器自体の用途が増える(鉢、壺など)。

・中期

縄文土器が最も発展し、装飾的になった時代。関東・中部ではこれまでの装飾目的だけでなく、土器の中に特定の観念、意匠を文様に落とし込んだものが現れ始める。

・後期、晩期

中期で見られた装飾性から一転、形式的・平面的な文様に変化する。全国的に擦り消し縄文が流行する。

西日本では後期後半以降、文様自体が衰退し、無文あるいは凸帯文系土器が広まる。

【参考文献】

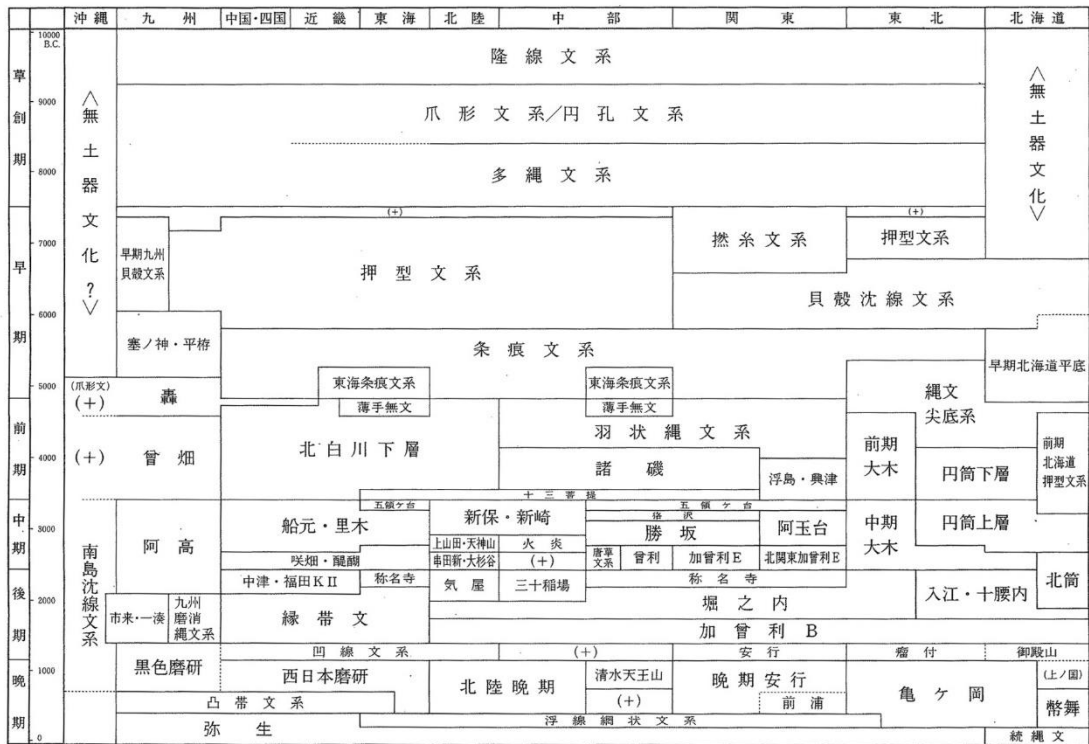
- 可児通宏 1988 「縄文土器の文様」『古代史復元 3 縄文人の道具』 講談社
- 可児通宏 2005 『考古学研究調査ハンドブック② 縄文土器の技法』 同成社
- 金子直之 1998 「加曾利E式土器」『日本土器辞典』 雄山閣出版株式会社
- 川越哲志 1998 「黄島式土器」『日本土器辞典』 雄山閣出版株式会社
- 河瀬正利 2006 『吉備考古ライブラリィ⑭ 吉備の縄文貝塚』 吉備人出版
- 小林達夫 1994 『縄文土器の研究』 小学館
- 鷹野光行、大塚達朗 1998 「安行式土器」『日本土器辞典』 雄山閣出版株式会社
- 竹広文明 1998 「羽島下層式土器」『日本土器辞典』 雄山閣出版株式会社
- 寺崎裕助 1998 「岩野原式土器」『日本土器辞典』 雄山閣出版株式会社
- 間壁忠彦ほか 1971 「里木貝塚」『倉敷考古研究集報』 第7号

愛媛県歴史文化博物館編 2005

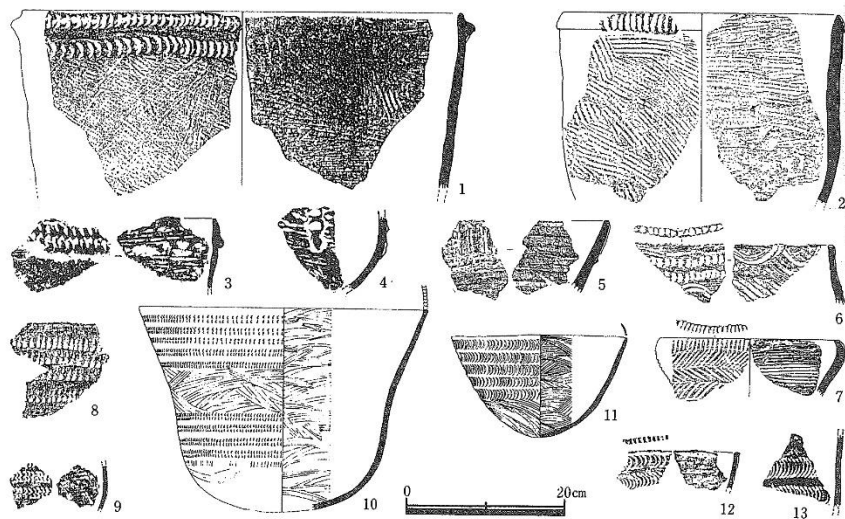
『平成 17 年度企画展 上黒岩岩陰遺跡とその時代—縄文文化の源流をたどる—』

倉敷埋蔵文化財センター編 2021 『中津貝塚』

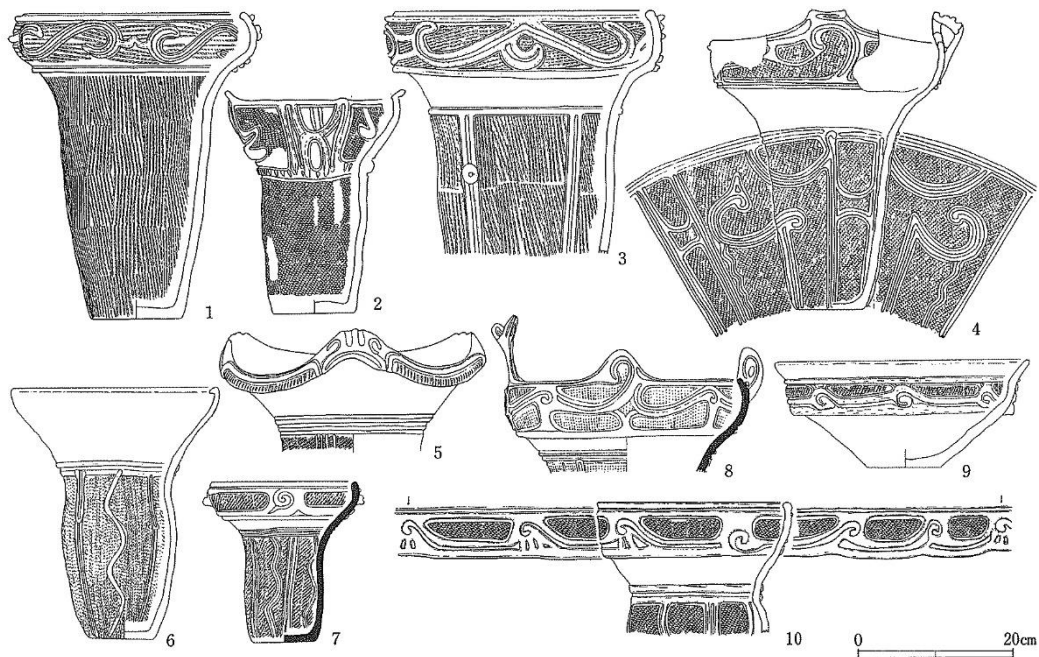
倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告書第 18 集



縄文土器編年表(小林 1994)

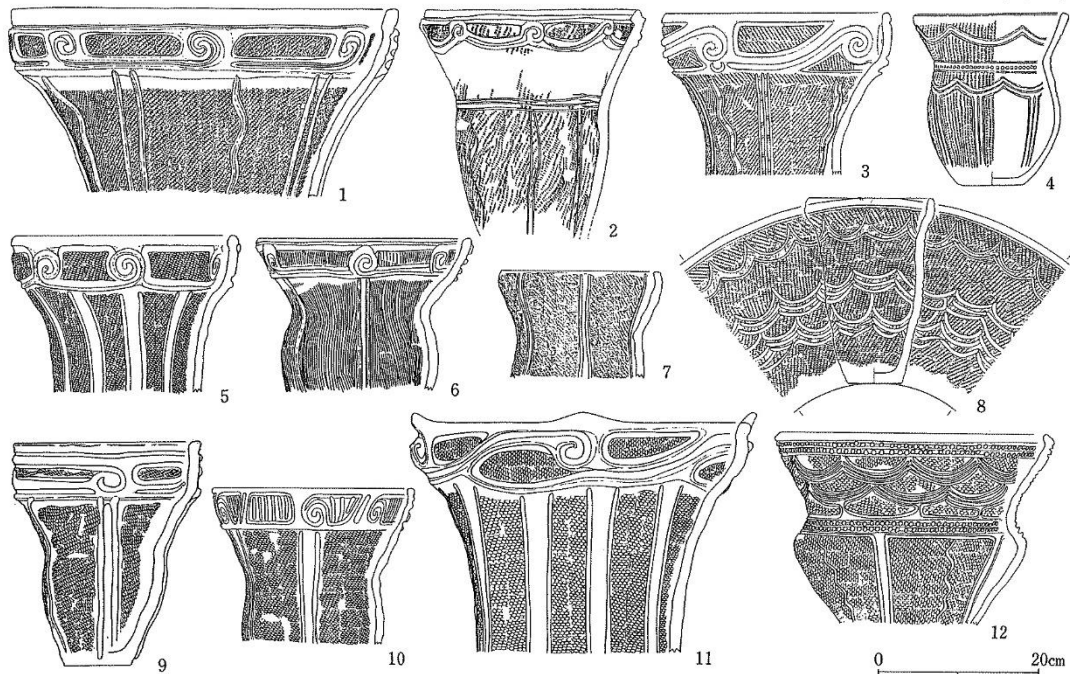


羽島下層式土器(竹広 1998)



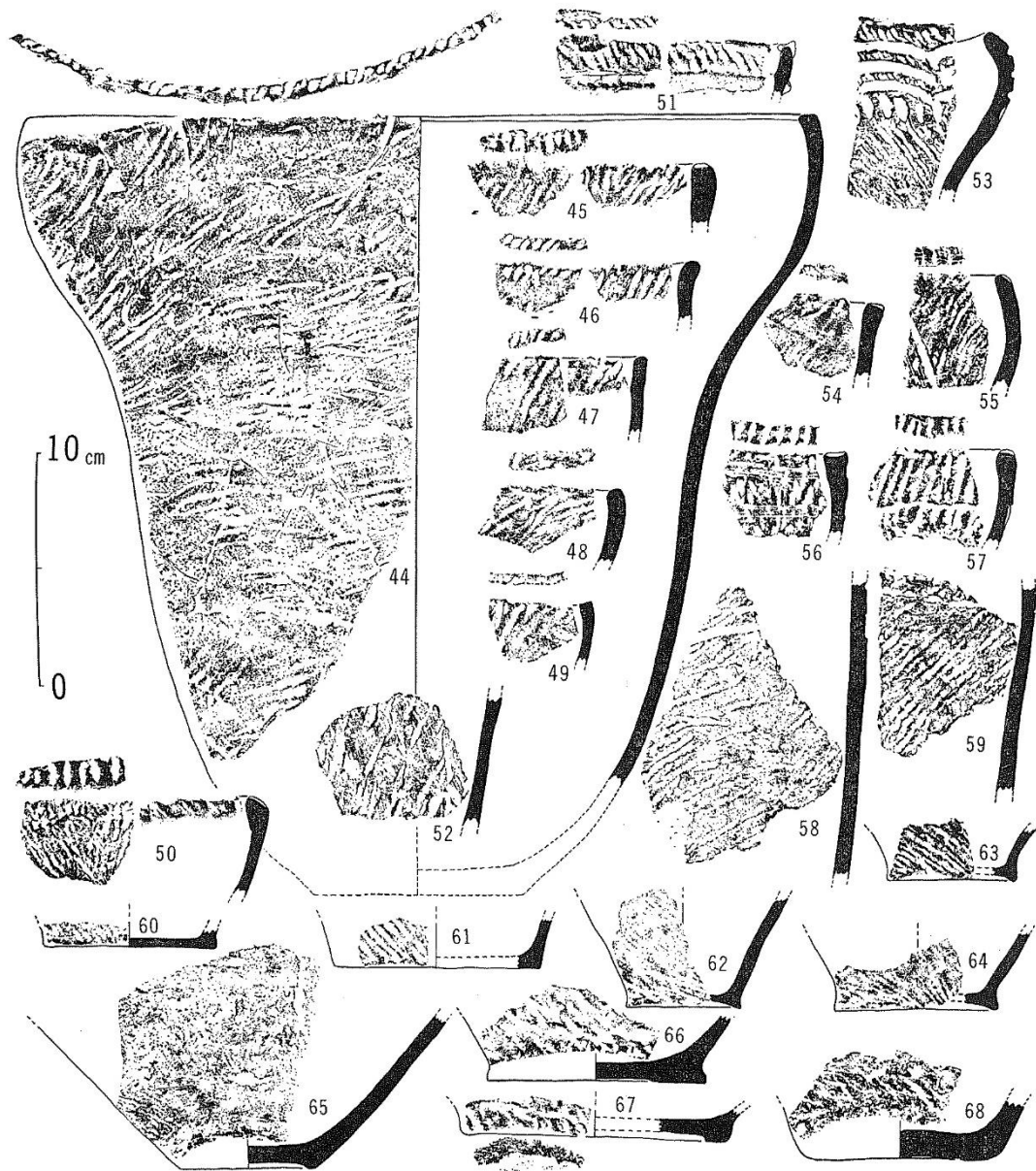
加曾利E I式土器 1~3 埼玉県岩の上, 4・6 同花影, 5 同花積貝塚, 7・8 同西原, 9・10 同坂東山 <1~3 栗原文蔵ほか1973, 4・6 谷井彪1974, 5 下村克彦ほか1970, 7・8 宮崎朝雄1972, 9・10 谷井彪ほか1973>

加曾利E I式土器 (金子 1998)



加曾利E II式土器 1 埼玉県島之上, 2 神奈川県当麻, 3・8 埼玉県大山, 4 千葉県子和清水貝塚, 5~7・10 埼玉県坂東山, 9 同岩の上, 11・12 同花影 <1 笹森健一ほか1977, 2 白石浩之ほか1977, 金子直行1982 b・c, 4 関根孝夫ほか1978 a, 5~7・10 谷井彪ほか1973, 9 栗原文蔵ほか1973, 谷井彪ほか1974>

加曾利E II式土器 (金子 1998)



船元 I 式土器 (間壁ほか 1971)

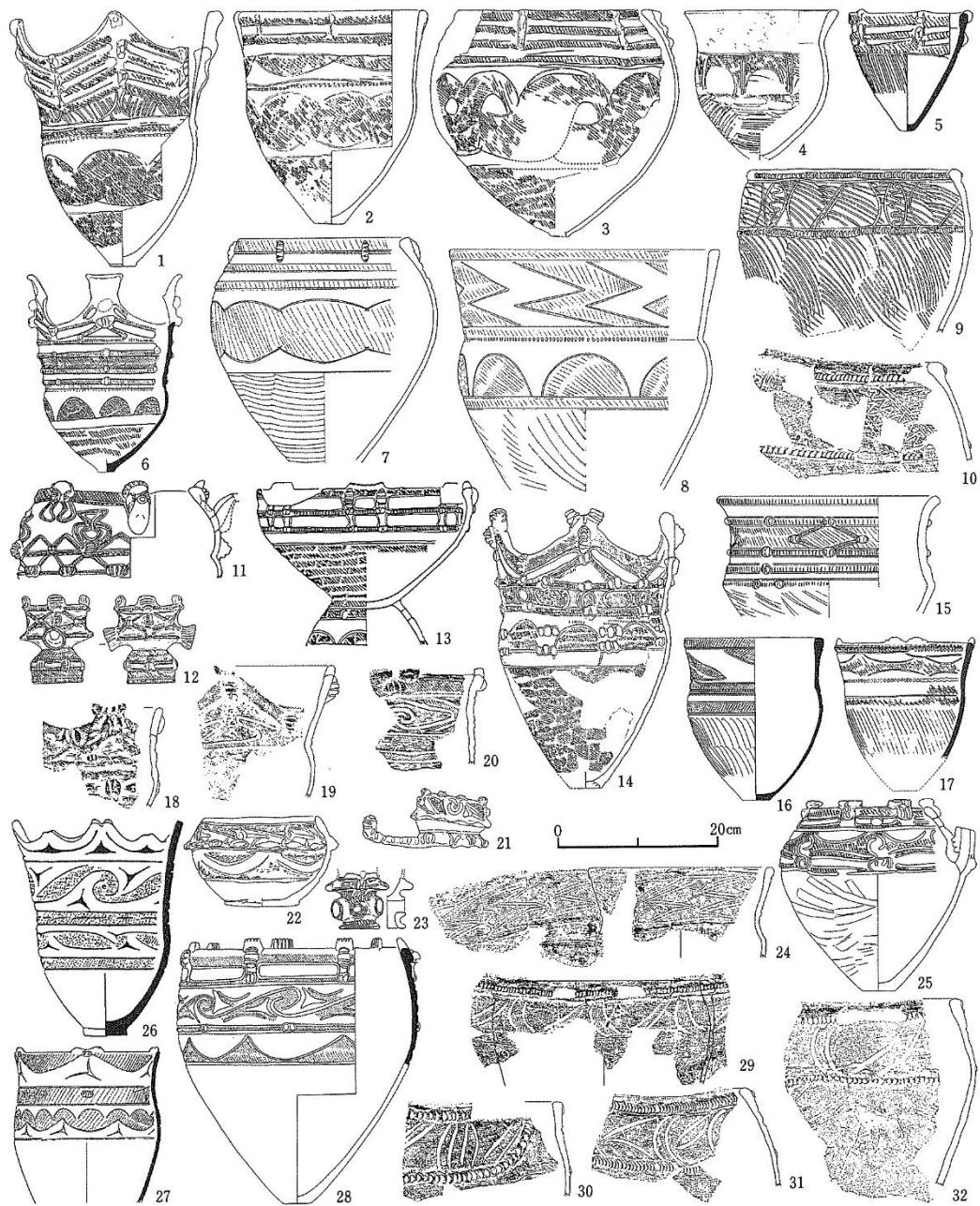
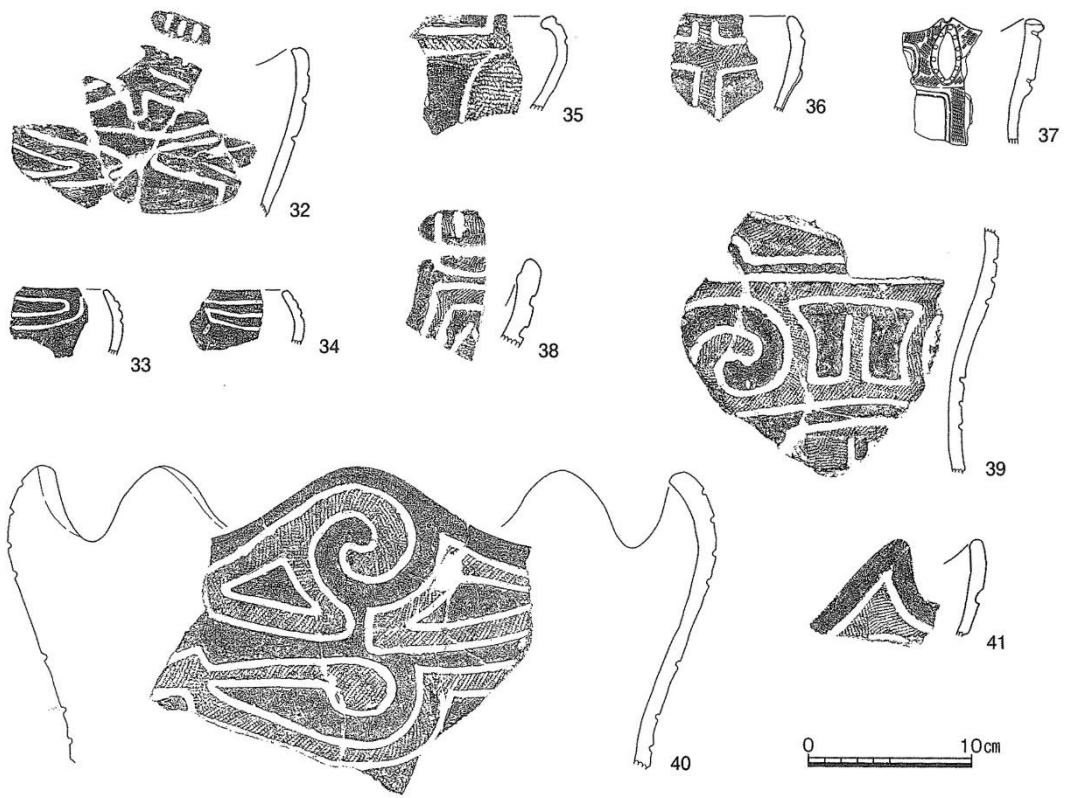


図1：1～4 千葉県西広貝塚，5 埼玉県石神貝塚，6・17 同小深作，7・8・15 千葉県千代田，9・10・14・20・22・29～32 埼玉県寿能，11 千葉県築地台貝塚，12 同中沢貝塚，13・21・23 同吉見台，16 埼玉県井沼，18 同駒堀，19 同高井東，24 同馬場小室山，25 茨城県中妻貝塚，26 東京都小豆沢，27 同下沼部貝塚，28 千葉県多古田 <1～4 米田耕之助ほか1981，5 小田静夫ほか1975，6・17 大宮市教育委員会社会教育課編1971，7・8・15 八幡一郎ほか1972，9・10・14・20・22・29～32 埼玉県立博物館1984，11 折原繁ほか1978，12 鎌ヶ谷市史編さん委員会1982，13・21・23 近森正ほか1983，16 安阿路洋ほか1960，18 谷井彪ほか1974c，19 吉川国男ほか1974，24 小倉均ほか1982，25 鈴木正博ほか1981，26 鎌木義昌ほか1965，27 吉田格ほか1969，28 鈴木公雄1982>

安行式土器（鷹野、大塚 1998）



中津式土器（倉敷市教育委員会 2021）